

平成 29 年度運営方針

ながの環境パートナーシップ会議 代表理事 金井 三平

ながの環境パートナーシップ会議（以下「P会議」という）は、「アジェンダ 21 ながの - 環境行動計画 - 2013」に掲げる長野市の環境ビジョン『山にみどり・川に清流・谷に風・空に星 自然と和して発展するまち・人のくらし みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの』の実現に向けて行動します。

平成 29 年度は、プロジェクトサポーター制度を推進し、事業者の参画を図ることで、プロジェクトチームの活動を支援します。

「つなぐ・伝える・行動する」活動は、市民・事業者・行政との協働を拡大させ、「**持続可能な P 会議**」とするために継続して取り組みます。

具体的な行動として

1 「アジェンダ 21 ながの - 環境行動計画 - 2013」を推進します

長野市域で環境問題に取り組む市民・事業者・団体・行政との更なる協働に向け推進します。

平成 29 年度は、P 会議と各プロジェクトの連携強化による活動の充実（**行動する**）に併せ、その活動を広く発信（**伝える**）し、次代につながる（**つなぐ**）成果の見える行動により、環境ビジョンの実現を目指します。

また、新たに策定された第二次長野市環境基本計画後期計画（H29～H33）との整合を図り、「アジェンダ 21 ながの - 環境行動計画 - 2013」を見直します。

(1) P 会議とプロジェクトチームの連携強化と環境活動の充実を図ります（行動する）

「アジェンダ 21 ながの - 環境行動計画 - 2013」の趣旨に沿った活動に取り組む外部団体・事業者との共催や参加などを通じ、協働の拡大を図ります。

① 主催事業の開催

平成 28 年度は、スペシャルプロジェクトチームを組織し、団体や企業の環境活動を発信し、次世代の若者を中心とした市民の皆さんへ伝えるとともに、団体、企業相互の交流・協働のきっかけとなることを目的に、「ながの環境団体大集合 2017」を企画・開催しました。各種団体や事業者、高等学校などの出展により、それぞれの環境活動について活発な意見交換や交流が行われました。

平成 29 年度の事業実施の際には、実行委員会を早期に組織し、団体・事業者・学校やプロジェクトチームなど、皆さんの環境活動を「つなぐ・伝える・

行動する」場として、各環境団体の活動の相互理解が推進され、更にはP会議の新規会員の勧誘につながるよう、充実した事業を開催します。

② 他団体との共催や参加

環境団体との共催や、各団体の環境活動へ参加や支援を通じて、若い世代や市民・事業者などにP会議の活動を広く発信し、協働による活動へ参加を呼び掛けます。

(例) 信州環境フェア、長野市環境こどもサミット、ライトダウンキャンペーン、ゴミゼロ運動、外来種駆除など

③ 理事会とプロジェクトチームの連携強化

理事会とプロジェクトチームの連携を強化し、一体となって環境活動を進めていくため、合同会議を適宜開催いたします。理事会がプロジェクトチームの活動を把握し、助言することでプロジェクトチームの充実を図るとともに、P会議の事業を協働で実施します。

(2) ながの環境パートナーシップ会議の活動を広く発信します(伝える)

P会議及びプロジェクトチームの活動状況と活動結果を、活動成果報告書(仮称)にまとめ、P会議の活動をより積極的にアピールします。また、ホームページなどを活用し、市民・事業者・団体などに広く情報発信を行ない、環境意識の啓発に努めます。

(3) 次世代につながり成果の見える活動を行います(つなぐ)

目標である長野市の環境ビジョンの実現に向けた活動を強化するため、プロジェクトサポーター制度を推進し、団体や事業者と更なる協働の拡大を図るとともに、世代をつないだ活動基盤を構築するため、若い世代との協働活動を進めます。

2 持続可能な環境パートナーシップ会議を目指します

(1) 組織の拡充を図ります。

(2) 充実した環境活動を行っていくためには、市民・事業者・専門家・若者など、多様な知見・能力を有している人間の集積が必要です。会員・プロジェクトチーム・理事会が協力し、また、それぞれの立場で、仲間づくりを進めるとともに、会員の増員を図ります。

(3) P会議のプロジェクトにふさわしい活動を発掘し、組織拡大を目指します。

(4) 充実した活動をするための活動資金を検討します。

充実した環境活動を行っていくために必要な活動資金確保のため、環境活動支援団体の助成金や企業等からの協賛金の活用を積極的に検討し、プロジェクトチーム単位での助成金申請を支援します。